

小学校第6学年 国語科学習指導案

単元名：「豊かな日本語の使い手になろう」

教材名：「雨のいろいろ」 倉持 保男

「数え方でみがく日本語」 飯田 朝子（東京書籍）

廿日市市立大野西小学校
授業者 倉田 正昭

- 1 日 時 平成24年12月6日（木）
- 2 学年・学級 第6学年3組（男子15人，女子19人，計34人）
- 3 場 所 4年1組教室

単元について

（1）単元観

小学校学習指導要領における第5学年及び第6学年の目標（3）には、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」とある。また、読むこと的能力を育てるために、「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんじたりすること。」を指導するとある。

本単元で学習する教材文「雨のいろいろ」と「数え方でみがく日本語」は、異なる題材を扱いつながら、共に日本語の特色やおもしろさについて触れている説明文である。

「雨のいろいろ」は、四季の変化に富む日本ならではの様々な雨の呼び名を題材として、日本語が日常生活と結びつきながら育まれてきたことを説明的に述べている文章である。文章構成上の特徴は、話題の提示に続けて、季節ごとの雨の呼び名、雨が降る様子を表す言葉を順に例示した上で、古来から日本人が、雨の降り方によって季節の移り変わりを感じてきたことや、雨が日本人の生活の根幹であった農耕作業に好悪様々な影響を与えたことを述べた後、結論を一文で簡潔にまとめているところである。

一方、「数え方でみがく日本語」は、「数え方」という身近な話題を切り口に、ことばが本来もっている力を十分に発揮するために、日本語の表現力を鍛えるべきだと主張している意見文である。文章構成上の工夫は、筆者の主張を読み手に納得させるための技法が多く用いられているところである。特徴的なものとして、仮定と検証を繰り返すことで自分の主張に説得力をもたせている点や、助数詞を「数え方の箱」、言葉が本来もっている力を「言葉の筋力」と呼ぶなどの比喩表現を採り入れることで読み手の理解を促している点が挙げられる。

本単元では、この二編の教材文を比較することにより、それぞれの筆者が用いている段落構成や論述方法、文章表現の工夫を読み取ることができる。また、それらの工夫を活用することで、明確な主張のもと、適切な具体例を用いた効果的な意見文を書く力を育てることができる単元でもある。

調査結果からみる課題

(1) 調査結果

平成24年度 「基礎・基本」定着状況調査 設問 四2より
2 次の の文は一段落から九段落のいずれかの段落のうしろに入ります。あてはまる段落の番号を口の中に入れてください。

段落のうしろに入ります。

多くのかんづめは、次のようにして作られます。

【出題の趣旨】

・内容の要旨を読み取り、段落相互の関係をとらえる。

【学習指導要領の内容・領域】

「C読むこと」イ

目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、読むこと。

<正答率 本校61.4% 広島県61.8%>

【誤答類型】

解答類型	三 (正答)	一 (誤答)	二 (誤答)	四 (誤答)	五 (誤答)	六 (誤答)	七 (誤答)	八、九 (誤答)	その他 (誤答)	無回答 (誤答)
本校の割合 (%)	61.4	1.0	1.0	11.9	5.9	6.9	5.0	6.9	0.0	0.0

(2) 誤答分析

上記の誤答を分析してみると、次のようなことが考えられる。

- ・解答類型四より、本校児童は、順序を表す接続語が正しく判別できていないことがわかる。五段落は「次に」という接続語で始まる。これは四段落の「まず」を受けており、かんづめの作り方の第二段階を示すものである。しかし、11.9%の児童が、挿入文の「次のようにして」をこの「次に」と混同している。
- ・解答類型五、六、七、八、九と誤答にばらつきがある。またこれらの誤答は正答である解答類型三以降の段落であることから、本校児童には、段落構成を意識しながら文章全体を大きくとらえて読む習慣が身に付いていないことがわかる。

(3) 課題となる力

このことから、本校児童の課題となっている点は、次のような点と考えられる。

課題1 接続語の役割が正しく理解できていない。

課題2 段落相互の関係を正しく読み取れていない。

(4) 本学級の課題

平成24年度 「基礎・基本」定着状況調査と同様の問題によるプレテストの結果
設問四1 (適切な接続語の選択)

【誤答類型】

解答類型	ア (正答)	イ (誤答)	ウ (誤答)	エ (誤答)	無回答 (誤答)
本学級の割合 (%)	88.3	2.9	5.9	2.9	0.0

設問四2 (段落相互の関係の把握)

【誤答類型】

解答類型	三 (正答)	一 (誤答)	二 (誤答)	四 (誤答)	五 (誤答)	六 (誤答)	七 (誤答)	八、九 (誤答)	その他 (誤答)	無回答 (誤答)
本学級の割合 (%)	73.7	8.8	5.9	2.9	2.9	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0

上記の誤答を分析してみると、設問四1の結果から、本学級児童の11.7%は、前後の文脈から判断して適切な接続語を選択できていないことがわかった。また設問四2の結果から、本学級児童の26.3%が、段落相互の関係をとらえ、適切に文を挿入することができていないことがわかった。また解答類型四、五、六、七を選択している4名の児童は、正答である解答類型三以降に文を挿入しており、明らかに文章構成の基本が定着していない。そのためこれらの児童については、筆者の用いた段落構成や表現方法、論述方法の工夫に気付くための個別の手立てが必要であると考えられる。

指導改善のポイント

(1) 指導上の課題

- 段落相互の関係を正しく読み取れていない。
→説明的な文章における基本的な構成とその効果を理解させる指導が十分でない。また筆者が用いている段落構成の特徴をとらえ、その意図について考えさせる機会が不足している。
- 接続語や文末表現の役割や使い方が正しく理解できていない。
→教材文を内容ごとのまとまりに分ける活動の際に、接続語を根拠にしながらかの前後の文脈を読み取らせたり、文末表現を根拠にしながらかの事実と感想、意見などとの関係を押さえながらかの読ませたりする指導が十分でない。

(2) 指導方法の工夫（重点項目の取組を含む）

- ① 目的意識をもって教材文を読ませる。
 - ・ 単元を貫く言語活動『日本語の素晴らしさ』について効果的な意見文を書く。を設定する。授業で日本語に関する教材文を読むことを通して、共感的に日本語への理解を深めると同時に、既習内容や日常生活での気づきを振り返りながら、日本語に関わる内容についての自分なりの考えをもつことができる。また、意見文を書くためには、段落相互の関係を考え、全体の要旨をとらえることが必要である。このことから、適切な言語活動であると考ええる。
- ② 文章構成を理解させる読みの指導をする。
 - ・ 「序論－本論－結論」、「現状認識－問題提起－解決－結論－展望」などの説明文における段落構成の基本形を理解させる。
 - ・ 繰り返し使われている言葉や題名とつながりがある言葉を重要なキーワードとして意識させる。
 - ・ 段落を短い言葉や文でまとめさせ、文章全体の要旨をとらえさせる。
 - ・ 筆者の文章構成の意図について考える機会を与える。
- ③ 接続語や文末表現の役割や使い方の指導をする。
 - ・ 接続語や文末表現に着目させ、文と文の意味のつながりに果たす役割を理解させる。
 - ・ 効果的な文章表現の基本形を理解させる。

【重点項目の取組との関連】

- ① 適宜ペアまたはグループでの話し合い活動を取り入れ、語彙力や読解力など児童の個人差に対応する。その際、話し合う視点を明確に示す。ペアでの話し合い活動は、隣席の児童1組で行う。ここでは、個人思考を通して、自分の考えをもたせた上で、意見交換をしたり感想を述べ合ったりすることを中心的な活動としたい。この活動の大きなねらいは、自分の考えの根拠をさらに明確にしたり自分の考えの妥当性を確かめたりすることであると考ええる。またグループでの話し合い活動は、隣席の児童4人で行い、「司会」役、「発表」役の児童を決めさせる。ここでは、意見交換や感想を述べ合うだけではなく、それぞれの意見の相違点や共通点に着目させることを大きなねらいとしたい。また、グループとして集約した考えを全体の場での交流に活用できるようにしたい。
- ② 考えたことを表現させるために、次のことに留意して指導を行う。
 - ・ すべての児童が教材文の内容を理解できるように本文を1枚に収めたワークシートを用いる。このことにより段落構成を視覚的に理解できると考える。
 - ・ 1文ごとに番号をつける。このことにより文を番号で指し示すことができるため、授業での本文を基にした交流を円滑に行うことができると考える。
 - ・ 筆者の用いた段落構成や論述方法、文章表現を「匠の技」と名付けることで、児童が親しみをもちながら優れた技法への理解を深め、意見文を通して自分の主張を表現する際に、積極的に活用しようとする意欲につなげていきたい。また、それらを表にまとめたものを「意見文秘伝の書」と名付け、児童が効果的な意見文を書く際の手立てとしていきたい。

小中の連携

【中学校で一人読みをさせるために】

①家庭学習の活用

- ・接続語や文末表現，重要なキーワードを意識しながら音読をさせる。
- ・国語辞典を使って意味調べをさせる。

②本文との対話のために

- ・接続語や文末表現，重要なキーワードに，サイドラインを引かせたりマーキングをさせたりする。
- ・形式段落に番号をつける。

③ノート指導

- ・ノートの横方向に線を引き，上段と下段に分けて記述させる。下段は，主に話し合い活動において自分の考えをまとめたり友だちの考えを書き留めたりすることに活用させる。交流後に自分の考えを修正したり付け加えたりする場合には，消しゴムを使わず，「思考の足跡」が見えるようにさせる。また上段は主に板書を書き写し，「めあて」や「まとめ」，全体で交流した内容を書き留めさせる。ワークシートはグループで共通の活動（作業）をする際に活用させる。

単元の目標

- 日本語の素晴らしさや，効果的な意見文を書くための工夫について，自分の意見や考えをもとうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。【C 読むこと（1）ウ】
- 文章の中での語句と語句との関係や，文や文章には，いろいろな構成があることについて理解することができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（オ）（キ）】

評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識理解・技能
○ 日本語の素晴らしさや，効果的な意見文を書くための工夫について，自分の意見や考えをもち，意見文に生かそうとしている。	○ 意見文を書くために，二編の教材文の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえたりして読み，自分の考えを明確にしている。	○ 文章の中での語句と語句との関係や，文や文章には，いろいろな構成があることについて理解し，意見文に生かしている。

指導と評価の計画

全9時間

次	時	学習内容	評 価			評価方法
			関	読	言	
一	1	単元計画を確認し、学習に対する見通しをもつ。 二編の教材文を通読し、初発の感想を書く。	◎			(関) 身近な事例を通して日本語の素晴らしさを感じようとしている。 発表ワークシート
二	1	「雨のいろいろ」の要旨をとらえたり段落構成の工夫を読み取ったりする。		◎	○	(読) 事実や感想、意見との関係をとらえたり、筆者の用いた段落構成の工夫を読み取ったりしている。 (言) 語句と語句との関係を理解して読んでいる。 発表ワークシート
	2	「雨のいろいろ」の文章表現と論述方法の工夫を読み取る。		◎		(読) 筆者の用いた文章表現と論述方法の工夫を読み取っている。 発表ワークシート
	3	「数え方で学ぶ日本語」の要旨をとらえたり段落構成の工夫を読み取ったりする。		◎	○	(読) 事実や感想、意見との関係をとらえたり、筆者の用いた段落構成の工夫を読み取ったりしている。 (言) 語句と語句との関係を理解して読んでいる。 発表ワークシート
	4	「数え方で学ぶ日本語」の文章表現と論述方法の工夫を読み取る。		◎		(読) 筆者の用いた文章表現と論述方法の工夫を読み取っている。 発表ワークシート
	5	二編の教材文の文章表現上の特徴を比較する。(本時)		◎		(読) 筆者の用いた段落構成や文章表現、論述方法の工夫のちがいを読み取っている。 発表ワークシート
三	1	意見文を書くための具体例や表現方法を整理しながら構成メモをまとめる。			◎	(言) 自分の考えを明確に表現するための文章構成を理解して生かそうとしている。 ワークシート
	2	日本語の素晴らしさを伝えるための具体例を用いた効果的な意見文を書く。		◎	○	(読) 意見文を書く際に、段落構成や文章表現、論述方法の工夫を選択している。 (言) 自分の考えを明確に表現するための語句と語句の関係を理解して意見文に生かそうとしている。 ワークシート
	3	意見文の内容や表現方法についての感想交流をする。	◎			(関) 具体例や表現方法に着目しながら感想を述べたり助言をしたりしようとしている。 ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

- 二編の教材文を比較しながら表にまとめることを通して、効果的な段落構成や文章表現、論述方法の工夫を読み取ることができる。

(2) 本時の評価規準

- ◎ 筆者の用いた段落構成や文章表現、論述方法の工夫のちがいを読み取っている。

【読む能力】

(3) 準備物

- 本文プリント（「雨のいろいろ」「数え方で学ぶ日本語」）
- ワークシート

(4) 本時の学習展開

	学習活動	指導上の留意点 ●努力を要すると判断される児童への手立て ■主な発問とそれに対する予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
見通しを持つ	1 音読をする。 2 本時の学習課題を確認する。	○ 「意見文秘伝の書」の仕上げとして、「雨のいろいろ」と「数え方でみがく日本語」の「匠の技」を比べ、意見文を書くための効果的な手法について考えていくことを伝える。	
	めあて「匠の技」を比べながら、二つの教材文のちがいについて考えよう。		
自分の考えを持つ	3 効果的な筆者の工夫を選ぶ。	○ 「意見文秘伝の書」に記述されている内容の中から、観点ごとに効果的だと思う筆者の工夫を選び、その理由も考えさせる。 観点 ・ 筆者の用いた段落構成 ・ 筆者の用いた表現方法 ・ 筆者の用いた論述方法	【重点項目の取組①】 ・ ペアやグループでの話し合い活動を設定する。
	4 グループで交流する。	● 工夫を選ぶことができない児童には、主張したい内容を問いかけながら、観点ごとに工夫を選ばせる。 ○ 観点ごとに色分けされた付箋を使いながら効果的だと思う筆者の工夫を交流する。 [期待される児童の姿] ・ 「司会」役の児童を中心に、話し手と聞き手が意欲的にかかわり合った話し合い活動をしている。 ・ 効果的だと思う筆者の工夫についての意見交流をしながら、それぞれの教材文の特徴に気付いている。	【指導改善のポイント】 ・ 意見文を書く活動につなげることを意識させながら筆者の工夫を選ばせる。 ・ 接続詞や文末表現に着目させ、段落ごとに書かれている内容と筆者の工夫を読み取らせる。
	5 学級全体で交流する。	● 筆者の工夫からわかるそれぞれの教材文のよさは何でしょう。 ○ 「雨のいろいろ」 ・ 具体例が多く、説明がわかりやすいです。 ・ 序論と結論が短くまとめてあり、主張がわかりやすいです。 ○ 「数え方でみがく日本語」 ・ 「～なのです」や「～ではないでしょうか」という表現が多いので、説得力があります。 ・ 「わたしは～うたいたいのです」という表現があるので、主張がはっきりしています。 ・ 問いと答えを何度も繰り返しているの、読み手を引き込むことができている。 ○ 「雨のいろいろ」は、具体例を多く用いながら、客観的な事実をもとにして主張をまとめている文章であることに気付かせる。 ○ 断定的な文末表現や直接的な論述方法、改善のための具体的な提案をしている点を根拠として、「数え方でみがく日本語」の方が、筆者の主張がより強く述べられている文章であることに気付かせる。 ○ 二編の教材文それぞれのよさがあることを実感させる。 ● 掲示物を活用しながら、二編の教材文のちがいを具体的にとらえさせる。	【読む能力】 (発言・ワークシート) ○ 筆者の用いた段落構成や文章表現、論述方法の工夫のちがいを読み取っている。
さらに考えを深める	6 本時のまとめをする。	「雨のいろいろ」は、具体例を多く使い、序論や結論を短くまとめた主張を読み取りやすい「事実・まとめ」型の文章です。「数え方でみがく日本語」は、問いと答えを何度も繰り返し、説得力のある表現が多い「主張・意見」型の文章です。	
	7 次時の予告をする。	○ 文型を提示し、筆者の工夫を2つ以上活用しながら、それぞれの教材文のよさや特徴を具体的にまとめられるようにする。 ○ 「雨のいろいろ」が事実を根拠にしてまとめている文章であることや「数え方でみがく日本語」が明確な主張を述べ、提案につなげている文章であることを押さえる。 ○ 次時から、意見文を書くための構成メモをまとめていくことを伝える。	【重点項目の取組②】 ・ 本時で学習したことを活用して、ワークシートにまとめる。
考えを交流する			
振り返る			

板書計画

まとめ	文章表現	論述方法	段落構成	めあて
<p>「雨のいろいろ」は、「事実・まとめ」型の文章です。</p> <p>「数え方で学ぶ日本語」は、「主張・意見」型の文章です。</p>	<p>「事実・まとめ」型</p> <ul style="list-style-type: none"> 「～です。」 「～ます。」 「～なんでしょう。」 「このようにできます。」 	<p>「事実・まとめ」型</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体例(事実)が多い。 意見をほとんど述べていない。 序論と本論が一文しかない。 	<p>「雨のいろいろ」</p> <p>「数え方で学ぶ日本語」</p>	<p>豊かな日本語の使い手になる。</p> <p>「匠の技」を比べながら、二つの教材文のちがいについて考えよう。</p>
	<p>「主張・意見」型</p> <ul style="list-style-type: none"> 「～できるでしょうか。」 「～ありませんか。」 「～してはどうなるでしょう。」 「～なのではないでしょうか。」 「～だと思います。」 「わたしはどう思うか。」 「～してみてもいい案です。」 「～する方法の一つだと思います。」 	<p>「主張・意見」型</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体例(身近な場面)が多い。 問いの文が多い。 答えの文が多い。 例えの言葉がある。 提案がある。 	<p>「序論」</p> <p>「本論」</p> <p>「結論」</p> <p>「序論」</p> <p>「本論」</p> <p>「結論」</p>	

検 証

検証の方法

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「感情」

①わたしたちは、日々喜んだり、悲しんだりしています。過去を振り返ってくやんだり、将来に対しても、少しのことで希望をもちたり、反対に不安になったりします。喜びや希望のような感情ばかりだったら、毎日のもっと楽しくなるように思えます。でも、実際はそうではありません。なぜ、わたしたちには不安や後悔などの、楽しさをそごうような感情があるのでしょうか。

②それは、不安や後悔などの感情も、生きるうえで役に立つからです。今、わたしたちにこうした感情が備わっているのは、長い長い人類の進化の過程で、それなりの理由があつて、残つてきた結果なのだと考えられます。

③例えば、どんなときも不安を感じずつき進んだために、危険なめにあい、命を落とした祖先がいたかもしれません。それに対して、不安になつてどうしていいか分からず、何もなかった。そのために生き残ることができた祖先がいたのでしょうか。

④後悔はどうでしょう。「あんなことをしなければよかった。」と後悔しているとき、多くの人は、同時に、もつとちがう方法があつたのではないかとあれこれ考へています。そうすることは、次に同じようなことが起きたとき、よりよく対応するのに役立ちます。

⑤不安や後悔などの感情が全く役に立たなければ、それをもつていた祖先はいなくなり、そのような感情も残らなかつたはずなのです。

⑥不安や後悔の思ひでいばいのは、こんな感情をもたない自分になりた、い、など思ふかも知れません。でも、喜び、希望、安心、悲しみ、不安、後悔、いかりなどのどんな感情も、生きていくうえで大切なものです。さまざま感情をもつことは、人生で起るさまざまな出来事に対応できる力になります。多様な感情をもつ自分自身を認め、受け止めていきましょう。

(平成二十三年度版 光村図書 国語 六年 創造 茂木健一郎)

一 筆者が問題を投げかけているのはどの段落ですか。またそこで投げかけている問題はどんなことでしょうか。

二 不安や後悔などの感情が生きるうえで役立つことの具体例を書いているのは、どの段落でしょうか。二つ答えましょう。

三 ⑥段落で筆者が言いたいことを三つ、それぞれ「感情」という言葉を使って書きましょう。